

修学旅行新聞

法人協会 財団法人 研究 寛田区
全国修学旅行研究 千代田区
〒101 東京都千代田区
西神田2-8-7 (幅ビル)
03 (3262) 2426・2932
振替 (東京) 6-36337

今秋の修学旅行事情 多様化が顕著に 全国で150万人が実施

公立高の航空機利用が拡大

今年も秋のシーズンだけ、高等学校を中心に、小・中学校の一部を加え、全国で推計百五十万人が十一月に修学旅行を実施しており、春の最盛期ほどでないが、各地で制服の列が続いている。

高校が中心となれば、行程が長く、航空機利用の機会も増加する。公立高校の航空機利用を認める地方自治体は年々増加、九州など西日本主力の傾向が、次第に東日本にも波及して、この秋は初めて東京都立高校

秋たけなわの
結構な陽明門に
日光東照宮
一同大感激!!



(横浜市立篠原小学校)

公立高の航空機利用が拡大

も仲間入りし、北海道、九州、沖縄へ足を延ばした。更に、群馬、神奈川の両県も航空機利用を認めた。

しかし、東京羽田空港は満杯状態で、沖合拡張後も増便は余り期待できず、今は地方空港の有効利用も検討しなければならぬ。

修学旅行の目的地も、航空機利用に伴って遠方に求められ、京都、奈良、広島、長野などを訪れる学校数は減少傾向にある。

また、体験学習、班別行動など見学形態の変化によ

主張

知性を高め 感性を豊かに

広報委員 北條直樹

十一月、平成六年度の計画輸送申込みの時期である。中学校では、二年先の修学旅行の行先が決定される。

行く先の決定は、修学旅行にとって、最も基本的かつ重要なものである。その選定に当たっては、幾つかの条件が考えられる。第一は、学校の教育方針と、それに基づき修学旅行のねらいによることである。以前にも述べたように、修学旅行は学校行事であり、学年行事ではない。学校組織を生かし、衆知を集めて取り組むべきものである。

第二には、学校の置かれている環境や生徒の実態を踏まえ、第三には、過去の実績の評価の上立った選定が必要である。毎年のように行く先を変えざる学校もあるが、過去の反省の上に立つての変更は当然だが、世間の風潮や

われらの信条

- ★ われわれは教育を熱愛し、友愛と信義を基盤とする同志的組織のうちに団結する。
- ★ われわれは全修協創設の精神にのっとり公益法人として、児童生徒の幸福のために挺身する。
- ★ われわれは修学旅行の改善向上に邁進し、我が国の教育振興に寄与する。



テニパークの土産を持って

第9回全国修学旅行研究大会

11月27日 神戸
会場 兵庫県神戸市総合教育センター JR神
校修学旅行委員会 助 戸駅下車徒歩5分
全国修学旅行研究協会 講演 文部省初中教科
後援 文部省、都道府県 テーマ 視野を広げ、心
教育長協議会ほか 豊かな人間性を育成す
日時 11月27日(金)13時 修学旅行
局 06・202・6500

第28回関西修学旅行研究発表会

12月4日 浦和
会場 埼玉県所沢市立富岡中学校教諭大磯 宏
主催 関東地区公立中学 埼玉県中学校長会ほか
校修学旅行委員会 助 日時 12月4日(金)13時
全国修学旅行研究協会 会場 埼玉会館 JR浦
後援 埼玉県教育委員会 和歌山県下徒歩5分
3262・2032

第4回海外研修セミナー

11月20日 千葉
ル、近畿日本ツーリス
ト(株)

助 全国修学旅行研究協会 解と国際交流に発展させ 日時 11月20日(金)14時
会場 千葉市文化センター
会は、国際性豊かな青少年の育成を目的として、二 主催 (財)全国修学旅行研
ユージランド大使館 研究会
務省、Nジールの関係者 後援 ニュージランド 申込 (財)全修協 03・3
と意見を交換し、相互理解 大使館事務省、Nジ 202・2032

然や文化などについて見聞を広め、寝食を共にして行う学校生活唯一の総合的な体験学習である。したがって、体験学習を考へ、行く先を選定する際にも、第一にこれらの内容が大切なことは言をまたない。

次に体験学習によって期待できることの一つに、「本物」に接する迫力がある。九月の名古屋における全修協セミナーでは、JR東海須田社長は、修学旅行には、学校では得ることのできない臨場感があることを強調された。

三十三間堂の千体にも上る仏像を見て、埼玉の対馬さんが「これ程にたくさん、皆さんの表情を考へ、彫刻するなんて、昔の人は本当にすごいと思いました。迫力があり、心引かれてじっくり見てきました」(本誌36号)と述べていることは、「本物のよさを端的に示したものと云えよう。

自然もまた同じである。社会科の時間に、阿蘇山について、世界一のカルデラをもつ複式火山であると説明がな

風紋

「旅に病んで夢は枯野をかけたく」旧暦十月十二日、芭蕉忌。第一の弟子其角は「十余年がうち、杖と笠をはなれ」と芭蕉終焉記に書いている。野ざらし紀行「奥の細道」など、俳句「ひとすじにつながり」(笈の小文)ながら、旅こそが芭蕉の後半生であった。芭蕉の時代は歩く旅だったが、交通機関の発達した今日も、歩いて日本一周を果たそうとしている人がいる。大阪の藤巻さんとその一人。昭和五十八年(当時五十四歳)から始め、仕事の合間を縫って既に一万四千キロを超えた。途中暴風雨に遭遇したこともあったが歩き通してきたという。再来年には完全踏破の予定だ。歩く修学旅行に踏みきったのは、京都府網野高校二年六組の四十四人。十月二十二日から三日間、百四十二キロを全員が踏破した。網野から明石まで千キロを歩くコースで、途中「町の花」チューリップの球根を人々に配ったという。「千キロをチューリップロード」という生徒たちの夢だ。夏休みに北海道から鹿児島まで二千八百キロを自転車で走破した小学生もある。北海道の中務君。過保護や学習塾で忙し近年の状況の中でさわやかなニュースだった。子供に宇宙への旅の夢を膨らませるのは毛利さん。週五日制が始まって、修学旅行にむかえした所もあると聞くと、今こそ修学旅行のよさを見直したいものだ。秋も深まる。「旅人とわが名呼ばれん初へれ」芭蕉。(北)

信頼される旅づくり



心にあざやかな思い出、 ツーリストの修学旅行。

修学旅行は、プランニングから実施まで、安全で意義深いものでなければなりません。近畿日本ツーリストでは、修学旅行に必要な事項をキメ細かく網羅した全国地域別「企画書シリーズ」を作成し、ご活用いただいております。さらに、北海道から沖縄まで、修学旅行・ビデオテープ「学習の旅シリーズ」もご用意。学校の教育方針に沿いながらも、生徒ひとりひとりの心に輝く思い出づくりのため、国内・海外のネットワークを駆使して、細心の努力をいたします。

近畿日本ツーリスト
支店/国内250店(登録)/海外15店

本社 千101 東京都千代田区神田松永町19-2

